

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	スポーツ実習		担当教員	大友 健太郎	クラス	ITスペシャリスト科2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	この科目は、スポーツに親しむことによって、体を動かすことで爽快感・達成感・他者との連帯感等、精神的な充足も図り、更には、体力の向上・ストレスの発散・生活習慣病の予防など、心身両面にわたる健康の保持増進を目的とする。 また、様々なスポーツを経験することで新しい気付きや、楽しさを発見する。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献	なし		

	講 義 計 画		実 施 細 目	
	A種目	B種目	A種目	B種目
第1回	ガイダンス		全体の流れと今後のスケジュール確認	
第2回	バレーボール①	バスケットボール①	トス練習 → 紅白戦	パス練習 → 紅白戦
第3回	バレーボール②	バスケットボール②	トスリレー → 紅白戦	パスリレー → 紅白戦
第4回	バレーボール③	バスケットボール③	レシーブ練習 → 紅白戦	ドリブル練習 → 紅白戦
第5回	バレーボール④	バスケットボール④	レシーブリレー → 紅白戦	ドリブルリレー → 紅白戦
第6回	バレーボール⑤	バスケットボール⑤	サーブ練習 → 紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第7回	バレーボール⑥	バスケットボール⑥	サーブ陣取り合戦 → 紅白戦	シュート対決 → 紅白戦
第8回	バレーボール⑦	バスケットボール⑦	紅白戦	紅白戦
第9回	バレーボール⑧	バスケットボール⑧	紅白戦	紅白戦
第10回	バレーボール⑨	バスケットボール⑨	紅白戦	紅白戦
第11回	バレーボール⑩	フットサル①	紅白戦	パス・ドリブル練習 → 紅白戦
第12回	バレーボール⑪	フットサル②	紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第13回	バレーボール⑫	フットサル③	紅白戦	パス・ドリブル練習 → 紅白戦
第14回	バレーボール⑬	フットサル④	紅白戦	シュート練習 → 紅白戦
第15回	バレーボール⑭	フットサル⑤	紅白戦	紅白戦
第16回	バレーボール⑮	フットサル⑥	紅白戦	紅白戦

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	基本情報試験対策講座		担当教員	沼田 聡暁	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	この科目は、基本情報処理試験修了試験合格を目指すために、主に過去問の演習と解説を行い合格に近づけることを目的とする。また、基本情報を合格した学生に対しては応用情報試験の問題を解説し合格を目指す。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	0 %	他	20 %
教科書	—			副教材および参考文献	オリジナル問題 過去問題		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	科目のガイダンス	自己紹介、授業の進め方、過去問演習 コンピュータの基本構成
第2回	ハードウェア	過去問演習 コンピュータのデータ表現
第3回	情報処理システム	過去問演習 高信頼化システムの構成
第4回	ソフトウェア	過去問演習 ソフトウェアの分類
第5回	ソフトウェアの種類	過去問演習 OS(オペレーティングシステム)
第6回	データベース	過去問演習 SQL
第7回	ネットワーク	過去問演習 インターネット
第8回	セキュリティ	過去問演習 情報セキュリティの概念
第9回	データ構造とアルゴリズム	過去問演習 データ構造、基本アルゴリズム
第10回	ストラテジ	過去問演習 企業と法務
第11回	ストラテジ(マネジメント)	過去問演習 経営戦略
第12回	基本情報・午前問題対策	過去問演習 基本情報の総まとめ
第13回	応用情報・午前問題対策	過去問演習 応用情報の総まとめ
第14回	総復習①	総復習の実施(テクノロジー)
第15回	総復習②	総復習の実施(マネジメント)
第16回	期末試験	期末試験の実施

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	C言語検定		担当教員	竹野谷 義彰	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	<p>・ この科目は、情報処理技術試験およびサーティファイC言語の共通学習分野として位置付け、</p> <p>① C言語の歴史と特徴、 ② 環境とコンパイル、 ③ フォーマットとエラーメッセージ、 ④ 変数と演算子、 ⑤ 配列と文字列、 ⑥ 制御分(ループ文、IF文、スイッチ文、) について、演習前の座学として理解し、基本的プログラミングが可能となる様、学習する。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	30 %	課題	0 %	他	70 %
教科書	「入門 C言語」： 実教出版			副教材および参考文献	・確認テスト / 過去問題		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	第1章 Cプログラミング概要	・科目ガイダンス、 1. 1~2 歴史と特徴
第2回	第2章 データ型	2. 1 データの型の種類と宣言
第3回	同 : 演算子	2. 3 演算子の種類と内容、インクリメント/デクリメント
第4回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第20回
第5回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第29回
第6回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第26回
第7回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第29回
第8回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第32回
第9回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第35回
第10回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第38回
第11回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第41回
第12回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第44回
第13回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第48回
第14回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第52回
第15回	・模擬試験	・サーティファイ3級: 第54回
第16回	・期末試験	・期末試験の実施

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	オブジェクト指向設計	担当教員	小野健裕	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	
					単位数	2

授業概要	<p>この科目は、目に見えない「ソフトウェア」を開発する際に、ソフトウェアや運用の流れを図(オブジェクト)で表現することを目的とする。「処理」や「運用の流れ」「手順」など、複雑でわかりにくい対象を、「図」で視覚的にモデリングする手法を身に着ける。また、実業務で頻繁に使われるクラス図をベースに状態マシン図、ER図、シーケンス図などのUMLも取り扱い幅広く授業を行うことを目標にする。</p>					
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。				
	評価割合	試験	60 %	課題	30 %	他
教科書	UMLモデリングレッスン			副教材および参考文献	スライド、FE問題	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	科目のガイダンス、導入	自己紹介、授業の進め方、第2章 集合の整理する
第2回	UMLの基本	第3章 UMLを分類して整理する
第3回	UMLの整理方法	第4章 種類とモノに分けて整理する
第4回	概念モデリングの基本	第5章 分割・統合して整理する
第5回	概念モデリングの応用	第6章 ビジネス活動を記録する
第6回	UMLの使い方	第7章 一連のビジネス活動を記録する
第7回	概念モデリングのコツを理解する	第8章 永続的な関係を表現する
第8回	UMLパターンを理解する	第9章 複雑な構造を表現する
第9回	中間まとめ	中間まとめの実施
第10回	UMLパターンの使い分け	第10章 将来の仕様変更に対応する
第11回	UMLパターンの特徴について	第11章 現在・過去・未来を表現する
第12回	UMLパターンの概念モデル	第12章 パターンを使って概念モデルを組み上げる
第13回	ERモデリングの基本	第13章 ERモデリングレッスン
第14回	ERモデリングとUMLモデリングの違い	第14章、第15章 UMLでロジカル・シンキングなど
第15回	期末試験対策	総まとめ
第16回	期末試験	期末試験の実施

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	擬似言語		担当教員	大石 有里	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	講義	単位数	2

授業概要	アルゴリズム力の強化のため、擬似言語に特化した講義・演習を行う。 前半では、基本的な擬似言語の読み方、トレースの方法など擬似言語に慣れることを目的とし、後半は問題演習と解説を通して、擬似言語の問題の解き方の習得を目指す。また、プログラミング言語と擬似言語の双方でアルゴリズムを記述し、理解を深める。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	0 %	他	20 %
教科書	なし			副教材および参考文献	アルゴリズムとデータ構造 配布スライド		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	擬似言語の文法	擬似言語の書き方(代入文、条件文、繰返し文、手続き処理)を習得する
第2回	擬似言語に慣れる①	Javaのプログラムを擬似言語へ変換してみる
第3回	擬似言語に慣れる②	擬似言語の理解を助けるトレースのやり方を学ぶ
第4回	擬似言語に慣れる③	日本語を頼りに、擬似言語の穴埋めを行う
第5回	配列操作①	1次元配列の基本操作の問題演習・解説
第6回	配列操作②	2次元配列の基本操作の問題演習・解説
第7回	復習	基本的な擬似言語の書き方の復習
第8回	基本アルゴリズム①	探索アルゴリズム(線形探索法)の問題演習・解説
第9回	基本アルゴリズム②	整列アルゴリズム(基本選択法)の問題演習・解説
第10回	基本アルゴリズム③	探索アルゴリズム(二分探索法)の問題演習・解説
第11回	代表的なデータ構造	データ構造(スタック)の問題演習・解説
第12回	応用的アルゴリズム①	文字列の比較の問題演習・解説
第13回	応用的アルゴリズム②	数値と文字の変換の問題演習・解説
第14回	応用的アルゴリズム③	ファイル処理の問題演習・解説
第15回	期末試験対策	期末試験に向けた問題演習・解説
第16回	期末試験	期末試験の実施

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	Java応用		担当教員	末原昭彦	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	<p>この科目は、1年次にJavaプログラミングの基礎的知識を履修済みあることを前提とし、インフォテックサーブ提供のフレームワークを使用し、設計、プログラミングを行い、システム開発を行うものである。 オブジェクト指向の考え方を理解、実際の現場でのシステム開発の擬似体験を行う。 グループ単位での最終発表を行い、期末試験に割り当てる。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	50 %	他	50 %
教科書	Javaシステム開発技法 Javaシステム開発演習			副教材および 参考文献		プリント	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	Javaシステム開発概要	チーム分け、中間発表、最終発表などについて
第2回	DB連携	ExecuteSQL01.java, ExecuteSQL0201.java
第3回	更新系SQLの実行, DAO	ExecuteSQL0202.java, ExecuteSQL0203.java
第4回	オブジェクト指向	演習1-1~4-2
第5回	システム開発演習の概要	チーム作業開始 仕様書の確認
第6回	システム開発演習 前半①	プログラム確認
第7回	システム開発演習 前半②	シーケンス図作成 内部レビュー
第8回	システム開発演習 前半③	シーケンス図作成 外部レビュー完了
第9回	システム開発演習 前半④	クラス図作成 内部レビュー
第10回	システム開発演習 前半⑤	クラス図作成 外部レビュー完了
第11回	システム開発演習 前半⑥	結合テスト仕様書作成 内部レビュー
第12回	システム開発演習 前半⑦	結合テスト仕様書作成 外部レビュー完了
第13回	システム開発演習 前半⑧	コーディング作成 内部レビュー
第14回	システム開発演習 前半⑨	コーディング作成 外部レビュー
第15回	中間発表準備	資料整理・プレゼン練習
第16回	中間発表①	6チームの中間発表を行う

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	中間発表②	6チームの中間発表を行う
第18回	システム開発演習 後半①	コーディング作成 内部レビュー
第19回	システム開発演習 後半②	コーディング作成 外部レビュー完了
第20回	システム開発演習 後半③	単体テスト仕様書作成 内部レビュー
第21回	システム開発演習 後半④	単体テスト仕様書作成 外部レビュー完了
第22回	システム開発演習 後半⑤	単体テスト用 ドライバ・スタブ作成
第23回	システム開発演習 後半⑥	単体テストの実施
第24回	システム開発演習 後半⑦	結合テスト用 ドライバ・スタブ作成
第25回	システム開発演習 後半⑧	結合テストの実施
第26回	システム開発演習 後半⑨	各ドキュメント・プログラムの最終確認
第27回	システム開発演習 後半⑩	最終レビューの実施
第28回	システム開発演習 後半⑪	最終レビューの実施(続き)
第29回	最終発表準備①	資料整理
第30回	最終発表準備②	プレゼン練習
第31回	最終発表①	6チームの最終発表を行う。
第32回	最終発表②	6チームの最終発表を行う。

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	Word演習(MOS)	担当教員	嶋之内 仁馬	クラス	ITスペシャリスト科 2年
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習
					単位数
					1

授業概要	本講義は、オンライン形式で実施する。 Microsoft Office Specialist Word 2019 の検定試験合格を目指すことを目的とする。 本試験はOffice2019の利用能力を証明する世界的な資格試験制度である。 Word2019を使用し、演習問題を中心に試験の出題範囲全般を網羅する。 後半は模擬試験を多く設定し、試験の合格につなげる。					
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。				
	評価割合	試験	0 %	課題	0 %	他
教科書	よくわかるマスター Mos Word 2019			副教材および 参考文献	なし	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	科目ガイダンスと基本操作	概要説明、文章の作成と保存
第2回	文書の作成と管理	文書内で移動、文書の書式設定、表示調整
第3回	文書の作成と管理	マクロによる操作、文書保存の拡張設定、確認問題と解説
第4回	文字、段落、セクションの書式設定	文字列や段落の挿入、書式設定
第5回	文字、段落、セクションの書式設定	文章のグループ化、確認問題と解説
第6回	表やリストの作成	表の作成と編集
第7回	表やリストの作成	リストの使い方、確認問題と解説
第8回	参考資料の作成と管理	文字列の利用
第9回	グラフィック要素の挿入と書式設定	グラフィック要素の挿入、書式設定
第10回	グラフィック要素の挿入と書式設定	図形やSmartArtの使用、確認問題と解説
第11回	第1回模擬試験	第1回模擬試験と解説
第12回	第2回模擬試験	第2回模擬試験と解説
第13回	第3回模擬試験	第3回模擬試験と解説
第14回	第4回模擬試験	第4回模擬試験と解説
第15回	第5回模擬試験	第5回模擬試験と解説
第16回	ランダム試験	応用力の獲得



# 授 業 計 画

No.1

授業科目	PHP演習		担当教員	小野 健裕	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	2 コマ/週	授業形態	演習	単位数	2

授業概要	<p>この授業では、Webアプリケーションのサーバーサイド構築スキル習得を目標として、代表的なサーバーサイド言語であるPHPを学習する。覚えた知識の復習を行い、PHPの基礎を固めていく。自身の習熟度に応じて学生自ら適切な課題を選択することで、効果的にスキル向上することを目指す。最終的にはPHP、SQL、HTML/CSSの3言語を活用し、多様なwebサイトを作成することを目的に設定する。最終日に制作課題を提出して評価を決める。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	確かな力が身につくPHP「超」入門			副教材および参考文献	スライド、補助課題など		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	ガイダンス	授業ガイダンス/環境構築
第2回	PHPの基本構文	PHPの書き方、echoの使い方
第3回	変数の使用方法	型の種類、変数の使い方
第4回	定義	変数の定義の仕方
第5回	送信と受信	PHPファイル間での送受信について
第6回	判定する方法	if文、switch文の利用
第7回	ランダムに表示する方法	ランダム関数について
第8回	分岐処理	switch文の応用
第9回	繰り返し処理	while文について
第10回	課題制作	関数をつかって課題を作成する
第11回	DB作成	テーブル、レコードを作成
第12回	PHPによるデータベース操作	データベースの接続・切断、select文/insert文の実行
第13回	画面から遷移する方法	PDO(PHP Data Objects) について
第14回	DBの検索	データを検索する方法について
第15回	中間まとめ	中間まとめの実施
第16回	DBに追加	insert命令について

	講 義 計 画	実 施 細 目
第17回	DBの更新	UPDATE命令について
第18回	DBの削除	DELETE命令について
第19回	DB操作のまとめ	DB操作について
第20回	サイトへのログイン機能	ログインするPHPファイルをつくる
第21回	サイトへのログイン設定	ログインする際の画面をつくる
第22回	サイトへのログアウト機能	ログアウトするPHPファイルをつくる
第23回	サイトへのログアウト設定	ログアウトする際の画面をつくる
第24回	会員情報の登録	情報・更新をおこなうPHPファイルをつくる
第25回	会員情報の登録画面	情報・更新をおこなう画面をつくる
第26回	ショッピングカートの作成	保存機能をもったPHPファイルをつくる
第27回	ショッピングカートの画面	ショッピングカートの画面をつくる
第28回	カートの情報操作	カート内の情報を関数より操作する
第29回	課題制作発表①	学生の発表 1～6番(卒業制作発表のように実施)
第30回	課題制作発表②	学生の発表 7～12番(卒業制作発表のように実施)
第31回	課題制作発表③	学生の発表 13～18番(卒業制作発表のように実施)
第32回	課題制作発表④	学生の発表 19～22番チーム(卒業制作発表のように実施)

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	プレゼンテーション演習		担当教員	嶋之内 仁馬	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	<p>本科目では言葉を介したコミュニケーションの基礎能力を高めることを目的とする。具体的にはプレゼンテーションをマインド、コンテンツ、デリバリーの3つの要素に分けて、各要素において演習を行っていく。</p>						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	なし	副教材および参考文献		PDF、プリント			

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	オリエンテーション	概要説明
第2回	コミュニケーション1	コミュニケーションについて学ぶ。準備。
第3回	コミュニケーション2	コミュニケーションについて学ぶ。実践。
第4回	マインド1	マインドについて学ぶ。準備。
第5回	マインド2	マインドについて学ぶ。レクチャー。
第6回	マインド3	マインドについて学ぶ。実践。
第7回	中間プレゼンテーション	ここまでのまとめ
第8回	コンテンツ1	コンテンツについて学ぶ。作成のポイント。
第9回	コンテンツ2	コンテンツについて学ぶ。添削。
第10回	コンテンツ3	コンテンツについて学ぶ。実践。
第11回	デリバリー1	デリバリーについて学ぶ。トーク内容のレクチャー。
第12回	デリバリー2	デリバリーについて学ぶ。ボディランゲージのレクチャー。
第13回	デリバリー3	デリバリーについて学ぶ。実践
第14回	まとめ	まとめ、期末課題について
第15回	プレゼンテーション	発表、相互評価（前半）
第16回	プレゼンテーション	発表、相互評価（後半）

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	Python基礎		担当教員	石濱 友裕	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	本講義は、オンライン形式で実施する。 AI分野をはじめとし、これまで以上に注目度が高まっているプログラミング言語「Python」の基礎文法について学習する。オンライン化でのPythonの実行環境として、「Google Colaboratory」を使用するため、事前にGoogleのアカウント登録を必須とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	0 %	他	20 %
教科書	確かな力が身につくPython「超」入門		副教材および参考文献		Google Colaboratory		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	科目ガイダンス	ガイダンス、Pythonについて、開発環境構築
第2回	Pythonの基本文法	Pythonで使える演算子、変数、文字列の操作
第3回	標準入力、条件分岐	標準入力、条件分岐、比較演算子、論理演算子
第4回	繰り返し文	while文、for文、break、continue
第5回	演習①	制御構文(条件分岐、繰り返し文)に関する演習
第6回	複数のデータを扱うデータ構造①	リストの活用
第7回	複数のデータを扱うデータ構造②	辞書型、タプル、集合の活用
第8回	演習②	リスト、タプル、集合、辞書型に関する演習問題
第9回	関数	関数の定義、関数の利用
第10回	lambda式	lambda式の定義、lambda式の利用
第11回	高階関数	map関数、filter関数の利用
第12回	演習③	関数、lambda式、高階関数に関する演習問題
第13回	リスト内包表記	リスト内包表記、リスト内包表記内のif文、ネストしたリスト内包表記
第14回	演習④	リスト内包表記に関する演習問題
第15回	モジュール	モジュールの生成/標準モジュールの活用
第16回	期末試験	期末試験の実施

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	C++演習		担当教員	千野正登	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	C++言語の文法とオブジェクト指向設計を学習し、大規模プログラム開発の技術を学習していくための基礎を築く。また演習を通してプログラムによるモノづくりの楽しさも学び、C++言語を使用したグラフィカルアプリケーション開発の実践力を身に着ける。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	10 %	他	10 %
教科書	オリジナル教材			副教材および 参考文献		無し	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	授業オリエンテーション、復習	授業概要説明。C言語の復習
第2回	C言語復習①	変数、if文、配列、for文
第3回	C言語復習②	for文、構造体、関数、ポインタ
第4回	C++とは	構造化プログラミングとオブジェクト指向
第5回	クラスの最小機能	クラスの作り方、使い方
第6回	メモリと変数	メモリ領域、new/delete、スマートポインタ
第7回	クラスの基本機能	コンストラクタ、デストラクタ、演算子オーバーロード
第8回	クラスと継承	メンバ関数と継承
第9回	オブジェクト指向①	カプセル化とアクセス演算子
第10回	オブジェクト指向②	ポリモーフィズム
第11回	コンテナ①	配列、文字列、タプル、ペア、ベクタ
第12回	コンテナ②	マップ、セット、イテレータ、範囲for
第13回	スコープ	スコープ、内部リンケージ、inline関数
第14回	テンプレート	関数テンプレート、クラステンプレート
第15回	C++基礎まとめ	C++基礎のおさらい、試験対策
第16回	期末試験	期末試験の実施

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	Javaフレームワーク		担当教員	渡部 元樹	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	本科目はフレームワークの考え方や、使い方について知識を深める事、技術力を高める事を目的とし、JavaのフレームワークであるSpringFrameworkを主に扱う。 講義での知識インプット、演習でのアウトプットを繰り返し行う事で知識の定着を図る。 成績は課題の成果物を主として評価し、出席率及び授業態度も評価対象とする。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	0 %	課題	80 %	他	20 %
教科書	オリジナル教材			副教材および 参考文献	オリジナル教材		

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	科目ガイダンス、環境構築	科目ガイダンスと開発環境の構築を行う。
第2回	フォーム処理①	MVCモデルアプリについて講義、演習
第3回	フォーム処理②	viewからのパラメータ取得について講義、演習
第4回	フォーム処理③	viewから取得したパラメータのサーバサイド処理
第5回	製作課題①	フォーム処理を利用した制作課題を行う。
第6回	DB連携①	jdbc、pom.xmlについて講義、演習
第7回	DB連携②	SQLの発行(CRUD)について講義、演習
第8回	DB連携③	thymeleafを利用した値の出力について講義、演習
第9回	製作課題②	フォーム処理、DBを利用した制作課題を行う。
第10回	HttpSession①	sessionの利用方法と注意点について講義
第11回	HttpSession②	sessionへの値保持、sessionからの値取得について演習
第12回	thymelaf①	thymeleafの標準式構文について講義。演習
第13回	thymelaf②	thymeleafのlayout機能について講義、演習
第14回	前期最終制作課題①	前期の内容を踏まえて制作課題 仕様説明と設計フェーズ
第15回	前期最終制作課題②	前期の内容を踏まえて制作課題 実装フェーズ
第16回	前期最終制作課題③	前期の内容を踏まえて制作課題 提出とフィードバック

# 授 業 計 画

No.1

授業科目	C#演習		担当教員	千野正登	クラス	ITスペシャリスト科 2年	
期別	前期	履修コマ数	1 コマ/週	授業形態	演習	単位数	1

授業概要	IT業界で幅広く使われるC#言語の基礎を教科書に沿ってC#とはどのような言語なのか、.NET Frameworkはどのようなものなのかを学び、C#を使ったWindowsアプリケーションの開発ができる実践力を身に着ける。						
評価方法	成績評価	下記の評価割合に基づいて「A」「B」「C」「D」の4段階評価を行う。ただし、「D」は不合格とする。					
	評価割合	試験	80 %	課題	10 %	他	10 %
教科書	確かな力が身につくC#超入門			副教材および参考文献		無し	

	講 義 計 画	実 施 細 目
第1回	授業オリエン	授業内容説明、C#とは、新規プロジェクトの作り方
第2回	C#の文法①	変数とデータ管理、条件分岐、繰り返し
第3回	C#の文法②	配列でのデータのまとめ方、メソッドでの処理の部品化
第4回	オブジェクト指向とは	オブジェクト指向のとらえ方。クラスとインスタンス
第5回	クラスのカプセル化	カプセル化の必要性和アクセス修飾子
第6回	クラスの継承	継承を使わない場合の問題点、継承の使い方
第7回	ポリモーフィズム	メソッドオーバーライド、ポリモーフィズムを使う
第8回	コレクション	List型でのデータの追加、削除、ソート、Dictionary型の使い方
第9回	LINQとラムダ式	ラムダ式とは、LINQとは、Whereメソッド、Selectメソッド
第10回	値型と参照型	参照型の必要性、参照型の注意点、ref修飾子とout修飾子
第11回	名前空間とusingディレクティブ	名前空間とは？ usingディレクティブ、staticキーワード
第12回	Windowsアプリ作りの概要	Windowsアプリケーションを作るには、アプリが動く流れ
第13回	ハローワールドアプリケーション	プロジェクトの作成、コントロールの配置、イベントハンドラの設定
第14回	計算処理とデータ取得	消費税計算機の作成、電話帳アプリの作成
第15回	ウェブ連携、表計算、ドローアプリ	天気予報アプリ、書籍管理アプリ、ドローアプリの作成
第16回	期末試験	試験実施